

## 今後の小高小学校・小高中学校のあり方について

### 協議事項1 再編校の学校種について

**事務局案** 再編校の学校種については「**施設一体型の義務教育学校**」とします。

#### 理由

令和3年4月より「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」として運営してきたが、「南相馬市第三次教育振興基本計画」が目指す「未来を切り拓き、強みを生かし自分らしく豊かに生きぬく子ども」の育成と「南相馬市公立学校適正化計画」が目指す「互いに学び合い、高め合うなど切磋琢磨する教育環境」の充実を図るため、これまでの小高小学校・小高中学校の9年間を通じた学びを更に充実させることを目指すため、小高小学校と小高中学校を再編し、新たに義務教育学校を設置するのが望ましい。

#### ○小高小学校・小高中学校の小中一貫教育の取組みの成果及び課題

小高小学校・小高中学校の小中一貫教育を実施している中で、最も効果が高いのが英語です。毎年実施している市学力調査では、これまで全国平均正答率を下回っていたものの、小中一貫校としての連携を進める中で徐々に全国平均正答率との差が小さくなってきており、令和6年度には、中学1年生及び2年生の正答率が全国平均正答率を上回る結果となりました。これは小学校からの英語の取組の効果が出ているものと捉えています。

小高小学校では、英語の音と文字の関係性を楽しく学ぶことができるフォニックス学習を令和4年4月より導入していること、また、外国語学習の時間には、中学校の英語科教員による授業を実施していることから、低学年のうちから英語学習の素地が育っているものと考えます。その結果、外国語の授業において英語での問いかけや指示にスムーズに反応する様子が見られるほか、外国からの来客に積極的に話しかけようとするなど、英語を聴き取り理解する力や英語によるコミュニケーション力の向上が見られます。

また、小高中学校においては、他校に先駆けて小学校でフォニックス学習を学んだ生徒が進学してきていることや体験型英語学習施設である東京グローバルゲートウェイ（略称：TGG）での英語研修の実施により、英検（実用英語技能検定）を全校生徒が受検するなど、英語の学習意欲も高い状況です。

学校生活の面から見ると、小高小学校の児童は小高中学校に進学するため、各行事や授業を通じて小・中学校の教職員が連携することは、子どもたちの安心感にも大きく繋がるものであると考えます。

一方で、隣接しているものの施設一体ではないことから、乗り入れ授業に制限が生じたり、異学年交流の機会が限定されるなどの課題もあります。

## 協議事項 2 再編校の位置及び通学区域について

**事務局案** 義務教育学校の位置については「**現小高小学校の位置**」とします。  
また、通学区域については「**現小高小学校及び現小高中学校の通学区域**」とします。

### 理由

・義務教育学校の位置は、施設が建設されてからの築年数が比較的新しいこと（小高中学校と比較すると20年近く新しい）や再編時の児童生徒見込数における校舎のキャパシティ（教室数等）の状況、また、グラウンドの人工芝生化やバリアフリーなどの施設の状況などを考慮すると「現小高小学校の位置」が望ましいとし、小高小学校の校舎を引継ぐものとします。

なお、義務教育学校の開設にあたっては、増築を行わず、現小高小学校の校舎を最大限活用し、美術室・家庭科室などの諸室を前期課程（小学校）・後期課程（中学校）で共用するための改修等必要な整備を行う。

・小高小学校と小高中学校の通学区域が同じであることから、「現小高小学校と現小高中学校の通学区域」とするのが望ましい。

## ○小高小学校舎等の施設の現状

小高小学校の校舎は平成4年から5年にかけて建設されました。築30年以上経過していますが、平成29年度に小高小学校を再開する際に大規模改造工事を実施しています。

鉄筋コンクリート造の校舎の目標耐用年数は80年となっていることから、施設の長寿命化を図るため、将来的に長寿命化工事\*1が必要になります。

一方、グラウンドの人工芝生化や施設のバリアフリー化も進められています。

また、防災の観点からは、津波浸水区域外に位置するものの、大雨の浸水想定区域の0～3.0m未満の区域に入っています。しかし、大雨等についてはある程度事前に予測が可能であるため高台への避難等の対応が可能であること、また、急な大雨については、垂直避難が可能であり、安全上の問題は低いと判断します。

- \*1 老朽化した建物について、物理的な不具合を直し建物の耐用年数を高めることに加え、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準にまで引き上げる改修工事。

(文部科学省 学校施設の長寿命化改修の手引きより:平成 26 年度策定)

※施設のレイアウト：別紙 1 のとおり

### ○小高中学校舎等の施設の現状

小高中学校の校舎は昭和 47 年から 50 年にかけて建設されました。築 50 年以上経過していますが、平成 18 年度から 20 年度にかけて大規模改造工事を実施しています。鉄筋コンクリート造の校舎の目標耐用年数は 80 年となっているため、近々、長寿命化を図るため、長寿命化工事が必要になります。

施設については、バリアフリー化がされています。

また、防災の観点からは、津波浸水及び大雨の浸水想定区域外に位置しており、体育館については避難所として指定されており、今後、エアコンの設置も予定しています。

※施設のレイアウト：別紙 2 のとおり

### 《小高小学校・小高中学校の主要施設概要》

【構造について】RC：鉄筋コンクリート造 S：鉄骨造 FRP：繊維強化プラスチック

学校名	敷地面積 (㎡)	建物概要 (R7.5.1現在)								
		建物名	構造	階数	面積	建築年月			築年数	耐震性
小高小	21,983	北校舎	RC	3	3,012	H	4	5	33	○
		南校舎	RC	3	2,248	H	5	3	32	○
		体育館	S	2	1,373	H	6	3	31	○
		プール	FRP	-	25m×17m 6コース	H	6	3	31	-
小高中	37,077	南校舎西	RC	3	1,154	S	47	9	52	○
		南校舎東	RC	3	1,682	S	49	12	50	○
		北校舎	RC	3	2,539	S	50	1	50	○
		体育館	S、RC	1	1,350	S	51	3	49	○
		プール	RC	-	50m×17.5m 7コース	S	51	11	48	-

### 協議事項 3 目標開校年度

**事務局案** 「令和 1 1 年 4 月開校」を目指す

**理 由**

今後、検討準備協議会にて義務教育学校の「教育理念」、「教育環境整備」、「学校名」等の基本的事項等の検討が必要となり、他の自治体の協議期間の事例（およそ 2 年間）や、小高小学校の改修等必要な整備を行う際には、「基本設計」「実施設計」「建築工事」を行う期間等を考慮する必要があることから、目標開校年度は「令和 1 1 年 4 月開校を目指す」のが妥当と判断。